

圖畫工作教育雜感

文部事務官 山形 寛

昨年の九月頃から今日まで、小學校及び中學校のユーン・ス・オブ・スタデーにせめられ通しで、他のことは考へても見えず、考へるよゆうもなく、幼稚園のことも、前には關心を持つていたが、其の後殆ど離れている始末、まあこんなことでも書いている中に、何か思いつくだろうと、誠に以て、おぼつかない次第である。

○ 先般或る幼稚園の先生にお會ひしたとき、「幼稚園を出る頃には、子供は餘程繪が上手になるのだが、小學校へはいると、すつかりだめになつてしまう。」と残念がつておられたが、小學校の先生にいわせると「小學校を卒業する頃には、子供は圖畫に興味をもち、相當程度かけるようになるものが少くないのだが、中學校へ行くと、やり方がすつかり變つて、子供等の圖畫をかく意欲が衰え、描くことも下手になつてしまふ。」とのことである。

中學校の先生は、「小學校で、何かごちやごちや圖畫教育をやつてゐるが、さつぱり基礎ができてゐない。茶碗一つかけないではないか。」といつており、小學校の先生は「幼稚園

から來た子供は、はじめは盛んに繪をかいたり、工作をしたるが、どうも伸びがわるい。これは、幼稚園では徒らに子供を早熟にさせるのではないか。」といつてゐる。

これ等の話は、どれがほんとうであらう。どれもほんとうかも知れない。或はどれも自分の立場だけをいつて、ほんとうのことではないかも知れない。

小學校から幼稚園へ望むことは、圖畫をかく技術や、物を作る技術を教へておいてもらいたいというのではないらしい。小學校へはいつてからの學習の基礎となる、いろいろな生活經驗を、なるべく豊富に積ませてもらいたいらしい。

幼稚園へ行つた子供は、家庭からすぐ小學校へはいつてくる子供よりも、種類のちがつた生活經驗をもつてゐることは事實である。この點幼稚園へ感謝してよい譯である。

しかしどうでしょう。幼稚園には幼稚園型ともいう生活經驗があるのでないでしょうか、その型が百姓家のように、素朴で、がつしりしてゐて、自然ならばよいのであるが、バラツク建ての外見ばかりの文化住宅のように、繊細で、へなへなしてゐて、妙に氣取つたところばかりあるものでは困りも

のである。今の幼稚園が、その後者の型である、というのではない。そうあつては困るというだけなんです。

しかし、幼稚園で圖畫をかゝせる。そのとき、あれもやらせればできる。これもやらせればできる。といつて、あまり高いところを望んだり、やらせようとすると、バラツク建の文化住宅になります。小學校でも幼稚園でも、目標ばかり高いところに置くと、かにの眼のように、眼ばかり飛び出した高いところにつけて、脚は横ばいしていることになる。本人はまつすぐに歩いてゐるつもりでも、はたから見ると横ばいでみつともない。

○

扱て、こんな横道の話は止めにして、幼稚園の先生方の参考になるか、ならないかは解らないけれど、小學校の圖畫工作教育は、今どんな方向に向つてゐるかについて、極大體のところを書いて見よう。

小學校では、これまで圖畫と工作とが別々の科目に分れていたのであるが、それが今度圖畫工作という一科目になつた。その理由は、小學校では、これまで科目の數が多過ぎたから、なるべく整理して科目の數を少くしようということになり、圖畫と工作とは、共に造形的な表現力と鑑賞力とを養うのが目的で、性質上似通つたところが多いことと、生活を中心にした學習をさせるには、一科目になつてゐる方が、かえつて都合がよいことなどが理由になつてゐる。幼稚園では、前から科目など立てないで一體のものとしてやらせてお

られたようであるが、この點、見方によつては幼稚園風になつたといえる。

これまでの圖畫教育でも工作教育でも、子供の誰れも彼れも藝術家にしようとか、技術家にしようなどと主張して教育をしてゐたものはないが、しかし、實際はまるで繪かきを養成したり、職人を養成するかのような教育が行われていた面もないとは言えなかつたのであるが、今度はそういうことを精算して、子供の生活經驗をもとにして、家庭生活や學校生活を、より美しく、より美しく、より便利にすることからはいつて、やがて彼等が社會に出たとき、その社會を住みよゝい、美しい、便利なものとする能力を興えようとするのである。したがつて、繪をかゝせたり、細工をさせたりもさせるが、それは繪が上手にかけたり、巧みに細工ができるようにするのが目的ではなくて、目標に達する手段としてやらせるに過ぎないのである。

また、今迄の教育は、國家的の見地とか、社會的な要求とかから割り出した教育目的を達成するために、一定の教材を一定の順序によつて、全國劃一的に、子供に傳達してゐたのであるが、今度は子供自らの欲求や興味をもとにして、子供自身に學ぶ目標を選ばせ、學ぶ方法を考へて進めさせる。教師ははたから、子供等が正しい欲求を持ち、よい方向に興味を向けるように、環境を整理し、生活經驗を積ませ、適當な補導を興えるのである。こういう點から見ても、これまでのように、がらんとした、味も香りもない教育では圖畫や工作の

教育はできないことになる。子供の興味を刺戟したり、創作欲を起させたりするに適した、面白くて美しい繪や、標本や、玩具や、表現の材料や、道具などいろいろなものを用意しておき、また、見學や、遠足などをさせたりして、子供自身の中から盛り上がつてくる力を盛んにし、それを指導の出発点とするようにしなければならぬ。こういうことは、これ迄の國民學校よりも、幼稚園の方がむしろよくやつていたのではないかと思う。今後の幼稚園でも、益々こういうたほんとうの學習の基礎になることをやつてほしい。従つて前にもいつたように上手に繪がかけることや、巧みに手技ができることは望まない。のびのびと豊かな生活をさせてほしいのである。

話は断片的になるが、圖畫工作では、消費能力をつけることが、一つの重要な目標になつてゐる。消費能力というのは、物を一つ買うにも、あの店の品、この店の品をよく比較して見て、どちらが使つてより便利であるか、どちらが美しいか、どちらが丈夫かなど、十分考へて買う。そして買ったものは、そのものの持つてゐる使命を十分發揮するように使い、手入れや保存をよくするようなことを指すのである。お室の壁に一枚の繪をはるにも、どの邊へ、どの位の高さに、どういう風に貼るのが最もよいかを考へて貼る如きも、消費能力である。一箱のクレヨンを使うにも、ていねいによく使ひ、いつても必要なときに使える状態にして置く如きも消費

能力である。この消費能力は、實際に物を使用することによつて養われるものである。

消費能力は、これまでしつげと結ばれていたものも含み、工具や備品の扱い方とか、手入れ保存とかいわれてきたものも含み、物と物との調和に注意することや、物と室との調和、家と庭との調和に注意することの如きも含む。また、鑑賞といわれていたものも含むものであるが、これまでは、それを消費能力という見地からはあまり考へられていなかったのである。

消費能力は年齢の進むにしたがつて、進んだ程度のことを學習させることができることは當然であるが、幼稚園で可能なことも少くないと思う。

以上は、今度の小學校の圖畫工作教育の一端を述べたのですが、しかし重要な點について述べたつもりです。

(九頁から) 學ばせなくてはならないということを申し上げたいのです。特に幼児に於いてはリズムを、そして旋律を、更に和聲をそのからだに感じさせ、からだで學ばせることが大切だということを深く考へます。

小學校などの眞似をして、むづかしい音楽を、わざわざ大人びたむづかしい、固くらしい教え方で指導するということは極端に排斥しなければならぬと思ひます。そして眞に幼児向きの指導法の打ちたてられることを切望します。